

広報

公共空間のコミュニケーションを考える

6

2008(平成20)年
No.673

団塊世代へのアプローチ～協働広報事例を中心に
八王子市／千葉市／鎌ヶ谷市／静岡市

平成20年全国広報コンクール

審査結果／特選・入選作品審査評／読売新聞社賞の選考を終えて

利用しやすい雰囲気づくりで団塊世代の背中をひと押し



「具体的な考えはないけれど、何か活動したい」「とにかく情報だけでも集めたい」…そんなボランティア初心者に強い味方になってくれそうなのが、千葉市が千葉駅前に開設した「千葉市ボランティアズカフェ」。ボランティアに関する情報の閲覧・検索、相談などを、お茶やコーヒーを飲みながら気軽に利用できるのが特徴だ。利用しやすい雰囲気をつくることによって、通りがかりの人にボランティア情報に触れてもらったり、関心はあるものの次のステップが踏み出せない中高年者の背中をひと押ししたりする。

(……続きは本文で)

団塊世代へのアプローチ～協働広報事例を中心に6

■八王子市

民間のフリーマガジンに情報提供
 広告会社が営業力やアイデアを発揮し 行政は市内の情報提供や信用力で協力する

■千葉市

千葉市ボランティアズカフェ
 利用しやすい雰囲気づくりで団塊世代の背中をひと押し

■鎌ヶ谷市

NPOが市と協働で団塊世代向け情報サイトを運営
 「年金を受給するまで働きたい」「地域で何かしたい」団塊世代の多様なニーズに合わせて情報提供

■静岡市

静岡暖快倶楽部
 「個性に応じたライフスタイルの選択と創造」を掲げて 多彩な支援を展開

平成20年全国広報コンクール20

■審査結果 (4・5ページ)

■特選・入選作品審査評

広報紙 都道府県・政令指定都市部/市部/町村部 (20)
 ホームページ 都道府県・政令指定都市部/市部/町村部 (35)
 写真 1枚写真/組み写真 (39)
 映像 (45)
 広報企画 (47)

■読売新聞社賞の選考を終えて (51)

連載/その他

プレゼンテーション・マインド養成講座 (3)12

論理的に話そう——
 根拠と理由付けをもって語る事が大切
 大島 武 東京工芸大学 芸術学部 准教授

「人をつなぐ」地域SNS～各地の地域SNS活用術 (6)14

香川県「ドコイコパーク」——持続可能なビジネスモデルの模索
 人や企業を支援して結びつけるコミュニティビジネスとして
 庄司昌彦 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 助教/研究員

地域ブランド最前線～地域を活性化する地域ブランド (3)16

地域ブランドの付加価値戦略(プレミアム戦略)
 地域のこだわりが品質や付加価値を生み出し消費者を魅了する
 田中 章雄 株式会社ブランド総合研究所 代表取締役社長

現代社会に潜むデジタルの「影」を追う～市民のための「サイバーリテラシー」(29) ...18

パソコンとケータイ——ケータイはパソコンとは違う影響を及ぼす
 矢野直明 サイバーリテラシー研究所/サイバー大学教授

■広報基礎講座のご案内.....23

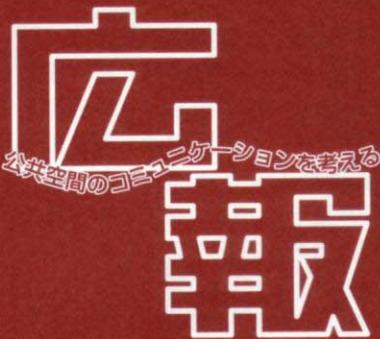
■information〈お知らせ〉.....31

■「ご存じですか宝くじ」.....53

■今月の記念日.....53

■編集室から.....54

■広報ライブラリー.....54



6

2008(平成20)年
 No.673

*連載「拝啓 広報担当者諸君」「広報クリニック」「広報紙面インデックス」は休載しました。

【イラスト】 おてもりのぶお

よりも、そうした方には、カフェの気軽な雰囲気合っているのではないのでしょうか」

サロン開催やメルマガ配信で利用者増をめざす

カフェの当面の課題は、利用者数を増やすこと。そのため、昨年度はチラシの配布が主だったカフェのPR活動

に、今年度は、ひと味工夫を加えて臨んでいる。カフェの会議室を利用し、ボランティアに関するさまざまなテーマの講座「ボラカフェサロン」を毎月開催するほか、それらカフェで開催するイベントや市内のボランティア募集情報を掲載したメルマガジン「ボラカフェ通信」を五月に創刊し、現在配信希望者を募っている。

「会社を辞めても今すぐに活動を始めたわけではないし、でも、常に情報は得ていたいし、きっかけづくりもしておきたいという方にぜひ利用してほしい」（鍋嶋さん）、「企業の再任用など続けて働く方が多い中で、三年後、五年後といった将来のための素地をつくっておきたいという方に、きめ細かい情報を届けていきたいと思いま

す」（片岡さん）
千葉市は今年四月、「千葉市市民参加及び協働に関する条例」を施行。市民の意見や提案を市政に反映させるための「市民参加」や、市民と市が公共の課題に取り組む「協働」を推進することで、市民主体のまちづくりをめざす。そのパートナーとしても、団塊世代に対する期待は大きい。

■NPOが市と協働で団塊世代向け情報サイトを運営——鎌ヶ谷市

「年金を受給するまで働きたい」「地域で何かしたい」「団塊世代の多様なニーズに合わせて情報提供

千葉県鎌ヶ谷市では、市民提案協働モデル事業として、二〇〇六年度に「団塊の世代応援WEBサイト事業」のパートナーを募集した。それ以来、市と協働して「かまがや我ら団塊の世代」を運営するNPO法人「かまがや地域情報窓」の川俣理事長に話を聞いた。

実施することになり、同事業は今年度で三年目を迎えた。

理事長はサイトについて、「まずは交流の場として使ってもらいたい」と語る。

イベントやセミナーを開催したりするよりも、市民と協働し、市民主体で行うほうが、より効果的で意義深いものになると思います。市民が主体的に活動するのを、行政は環境を整えることでバックアップする。そういう関係が良いのではないかと考えています」

「かまがや我ら団塊の世代」を運営するNPO法人「かまがや地域情報窓」の川俣理事長に話を聞いた。

NPO法人「かまがや地域情報窓」が管理運営するサイトは、「かまがや我ら団塊の世代」というネーミングで、主に定年を迎える団塊世代の市民に対して、地元でボランティア活動やコミュニティビジネスを始めるための情報提供を行っている。

「団塊世代がいざ地域活動をやるうとしても、地元にもったく人脈やつながりが無いということがほとんどです。そのきっかけづくりが私たちの役割だと思っています」（川俣理事長）

鎌ヶ谷市市民活動推進課の飯田廣主幹は、団塊世代への情報提供を市民と協働で行う意味を次のように語った。

サイトはきっかけづくりの交流の場

このサイトの特徴は、団塊世代に役立つ情報を提供するだけでなく、団塊世代同士の交流の場として、「旅行」や「健康」などの項目別の掲示板やブログ機能を活用している点にある。NPO法人「かまがや地域情報窓」の川俣

「団塊世代への情報提供の目的は、団塊世代の市民の方が地域活動や地域での仕事などに主体的に取り組むのを支援することにあります。そのため、行政が自分たちだけで、情報提供したり、

市内六千人の団塊世代に協働して対応

NPO法人「かまがや地域情報窓」は、インターネットを活用したまちづくりの推進を目的として、二〇〇三年に千葉県の認可を受けて設立された。主な事業は五つあり、一つはまちづ

鎌ヶ谷市では、二〇〇六年度に市民提案共同事業として、三つのテーマの事業を募集した。そのうち、「団塊の世代応援WEBサイト事業」を、市内のNPO法人「かまがや地域情報窓」が

実施することになり、同事業は今年度で三年目を迎えた。

理事長はサイトについて、「まずは交流の場として使ってもらいたい」と語る。

イベントやセミナーを開催したりするよりも、市民と協働し、市民主体で行うほうが、より効果的で意義深いものになると思います。市民が主体的に活動するのを、行政は環境を整えることでバックアップする。そういう関係が良いのではないかと考えています」

くりに関する鎌ヶ谷市役所、鎌ヶ谷市商工会の受託事業。二つ目は、市民生活と福祉の向上、地域経済活性化に役立つウェブ情報提供事業。三つ目は、イベントによって「出会い・研鑽・社会貢献の場」を創出して、市民の草の根活動を支援する事業。四つ目は、まちの活性化に関するホームページ関連事業（ホームページ制作、メンテナンス、広告掲載、コンサルティングなど）。そして、五つ目は、市民向けのパソコンの教育・訓練事業である。

このような事業で培った経験とノウハウを基に、〇六年度から団塊世代向けの情報提供を市と協働で行っている。

団塊世代からの相談を受けるようになって、彼らは非常に切実な問題を抱えていることを痛感しました。相談内容としては、仕事がしたい、収入を得たいというものが非常に多くあります。六十歳で定年退職を迎えても、六十五歳になるまで年金はもらえません。その五年間をいかに乗り越えていくか。ここに団塊世代の切実なニーズがあります。

市としては、シルバー人材センターでの技能研修などを実施していますが、それだけでは市内に約六千人いる団塊世代をカバーしきれません。

また、仕事の面だけでなく、生活の心配がなくても、地域とのかかわり方を模索したり、自分の力を何かの役に立たいと考えたりする人が多くいます。

そのため、行政だけに任せるのでは

かまがや 我ら団塊の世代!

このウェブサイトは、団塊世代の生活や活動に関する情報を提供し、地域とのかかわり方を模索するためのプラットフォームです。

市内のイベント情報

市内のイベント情報

市内のイベント情報



鎌ヶ谷市では、デビューパーティーやデジカメ講座などを定期的に行っている。

- 「かまがや我ら団塊の世代」
<http://www.kamagaya-dankai.or.jp/>
- NPO法人「かまがや地域情報の窓」
<http://www.kamagaya-info.com/>

なく、私たちが市と協働していろいろな情報を提供していく必要があります」（川俣理事長）

社会性と芸術性を持つ団塊世代に合わせた情報提供

鎌ヶ谷市では、これまで東京などに働きに出ていた団塊世代に向けて、地域に参加するきっかけをつくらせてもらおうと、「団塊の世代地域デビューパーティー」を開催している。今年二月の第二回パーティーでは、会場でミニFMラジオのデモを行い、市内で活動する団体の紹介や、スタジオからの生放送が行われた。

「かまがや我ら団塊の世代」では、開

催の告知や当日の様態などをサイト上で紹介するなど、各種イベントの広報活動を担っている。また、「デジカメ講座街のカメラマン」と題して、千葉県の再チャレンジ学習支援事業として団塊世代向けのデジカメ講座を開催するなど、イベント開催にも参加している。

「デビューパーティーやデジカメ講座に参加した人に対しては、主催したボランティア団体が継続的なアプローチを行っています。一度や二度、イベントに参加しただけでは、人脈を築いたり、自分のやりたいことを見つけたりすることは困難です。その入り口を活用して、いろいろな情報を提供し、個人のニーズに沿って発展させてい

く。自分のやりたいことは、一人一人が自分で見つけるしかないのですが、そのためのお手伝いをするのが、私たちの役割だと思っています」（同）

団塊世代が六十歳前後になり、これから元気な高齢者がますます増えることで、社会のありようも大きく変わっていくかもしれない。団塊世代への情報提供は、その時々時代や個人の多様なニーズを踏まえて、さまざまな形で行われる必要があります。

団塊世代は、若いころに学生運動やグループサウンズなどを経験した世代であり、社会的な関心も芸術的な感性も強いものがあります。仕事から離れて、青春時代の趣味に戻る人もいるだろうし、積極的に社会貢献したいと考える人もいます。私たちが相談を受ける人の中にも、六十五歳を過ぎて年金をもらうようになっても働きたいという人や、海外で新しい仕事したいという人もいます。

現在、私は六十五歳ですが、周りを見てもまだまだ健康で何かをやりたいと思っている人は多くいます。そういう元気な高齢者に対して、情報提供していくことはこれからです。重要になると思います。私たちのサイトで、文字と写真だけでなく、動画を充実させたり、デビューパーティーで実験したミニFMやインターネット放送を活用したりして、より幅の広い、市民生活に役立つ情報提供ができるようにしていきます」（川俣理事長）